

# 令和3年度病害虫発生予察情報 予報第8号（9月）

令和3年9月27日  
発表：福島県病害虫防除所

## 1 野菜・花き

作物名	病害虫名	地方	発生時期	発生量	予報の根拠	防除上注意すべき事項
夏秋トマト(被覆栽培)	灰色かび病	全域	—	やや多い	発生ほ場割合は平年並であった(±)が、発生程度の高いほ場割合が高かった(+)	多湿条件で発生が多くなるので換気を十分に行う。 発病葉は摘除し、防除を徹底する。
	葉かび病	全域	—	やや多い	発生ほ場割合は平年よりやや高かった(+)	多湿条件で発生が多くなるので、換気を十分に行う。
	ハモグリバエ類	全域	—	やや少ない	発生ほ場割合は平年よりやや低かった(-)	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
	コナジラミ類	全域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並だった(±)	ほ場をよく観察し、発生が多い場合は、速やかに防除を実施する。
	オオタバコガ	全域	—	平年並	発生ほ場割合は平年並であった(±)	生長点付近をよく観察し、寄生や被害が見られた場合は、速やかに防除を行う。
野菜・花き共通	ハスモンヨトウ	全域	—	平年並	フェロモントラップの誘殺数は平年並であった(±)が、県北・浜通り北部はやや多かった。	ほ場をよく観察し、寄生や被害が見られた場合は、速やかに防除を行う。

注) 予報の根拠の中で (+) は多発要因、(-) は少発要因、(±) は平年並要因であることを示す。

### ○注意が必要な病害虫

夏秋トマト(被覆栽培)	<p><b>■トマトかいよう病</b></p> <p>本病は細菌病であり、<b>土壌中の病原菌(前作の罹病植物残渣等)が第一次伝染源</b>となり発病し、その後、芽かきや収穫、誘引などの管理作業による<b>二次伝染</b>により被害拡大します。</p> <p><u>本病の発生が見られたほ場では、次年度に持ち越さないよう以下の対策を実施してください。</u></p> <p>栽培終了後、発生ほ場の植物残渣はできる限りほ場内に残らないよう、ほ場外に持ち出し適切に処分してください。使用したハサミや支柱等の資材を消毒し、発生リスク低減に努めてください。</p> <p><b>■トマト黄化葉巻病</b></p> <p>冬春トマト栽培でも発生が確認されています。本病はウイルス病であり、<b>タバココナジラミの媒介</b>により感染します。汁液伝染、種子伝染、土壌伝染、また、オンシツコナジラミ等による虫媒感染はしません。</p> <p>本病の発生を認めた場合、<b>タバココナジラミの侵入・脱出防止を心がけ、ほ場内での発生密度が高くなるように発生初期から適切な防除を行ってください。</b>夏秋トマト栽培終了後は、ハウス内を蒸し込み、タバココナジラミを死滅させてから施設内を片づけ、抑制栽培や冬春トマト栽培ほ場へ侵入をさせないようにしてください。抑制栽培や冬春トマト栽培では、タバココナジラミの防除を徹底し、発病株は抜き取り、ビニール袋に詰め密閉するなど、生きた虫が植物体に付いたまま施設外に持ち出さないようにしてください。未発生地域においても、購入苗等により持ち込むおそれがありますので注意してください。</p> <p>病害虫防除所HPに掲載している病害虫防除情報「注意喚起 黄化葉巻病(TYLCV)のまん延防止対策」、病害虫ライブラリー野菜花き類「コナジラミ類」もご覧ください。</p>
-------------	--

○侵入を警戒している病害虫

かんしょ (サツマイモ)	<p><b>■サツマイモ基腐病</b></p> <p>本病は糸状菌で、サツマイモ塊茎の腐敗や葉・茎が枯れる病気です。はじめに地際部の茎が黒～暗褐色に変色、腐敗し、やがて茎葉が萎凋し、枯死します。発病が藩梗(しょうこう：茎と塊根を繋ぐ部分)を経て塊根まで拡大すると、なり首側から塊根が腐敗します。罹病した塊根やつるで伝搬し、植物残渣が翌年の伝染源になります。</p> <p>本病は平成 30 年に沖縄県で初めて確認され、その後、急速に発生が拡大し、近県でも発生が確認されています。</p> <p>発生県からの苗購入が確認されていることから、本県にすでに侵入している可能性が高く、ほ場にまん延すると防除が困難になるため、生育不良の株や塊茎に腐敗が見られた際には、各農林事務所（農業振興普及部・農業普及所）、病害虫防除所又は農業総合センター生産環境部作物保護科へ連絡ください。</p>
-----------------	---